



通知票をご覧いただくにあたって

今年度から通知票を一新しました。評価の方法や手順に大きな変更はありませんが、新しい様式のポイントやご覧いただく際の留意点について説明します。

1 学期ごとに1枚の通知票をお渡しします

「学期ごとに1枚」というと、2・3年生のみなさんや保護者のみなさまは「これまでと同じじゃないか」と思われるかもしれませんが、しかし、これまで2学期にお渡しするものには1学期+2学期の成績を記入していましたが、今年度は2学期の成績のみに変更します(つまり、1年間の成績の動きを見ようとすれば3枚の通知票を見比べる必要が出てきます)。

なぜそのような変更が必要なのか。それは、「観点別評価」を記入するようにしたという、物理的なスペースによる理由が第一です。

2 「観点別評価」をお知らせします

教科ごとに4観点(国語科は5観点、2・3年生の選択Cは2観点)を設け、学習のようすを各観点から見るとその実現状況はどうであったかをA・B・Cの3段階で評価しています。ここで用いた観点は文部科学省が示しているもので、本校でもこれまでから授業のねらいとこの観点を結びつけながら指導を行っていました(目標に準拠した、こうした評価の方法を「絶対評価」と呼びます)。ただ、これまでは「評定」と呼ばれる5段階の数字のみを示していましたが、学習の状況をより詳しくお伝えするために観点別評価もお知らせすることにしたものです。

3 「評価」から「評定」へ

5段階の「評定」は、「観点別評価」を総括してつけています。例えば「AAAA」であれば、「4または5」というように。つまり、「AAAA」であっても5にならず、4になる可能性があるわけです。通知票にも記載してありますように、5は「学習の状況が十分満足できるもののうち、特に程度の高い」もの。それは、Aにも幅があるから出る違いだと考えてください。

4 「行動の記録」の観点をよりわかりやすくしました

「評価の観点」の区分けに変更はありませんが、みなさんの生活面をより見極められるように細目を変更しました。

通知票は、現時点における状況を示したものです。テストの結果だけでつけているわけではありませんし、この評価があなたのすべてではありません。評価は次の目標を立てるためにある 夏休みは、そして、2学期は、何に力を入れていけばいいか、その参考にしてください。

社会を明るくする運動に参加しました

写真が入っていました

7月6日、生徒会執行部のみなさんが、犯罪や非行を防止し犯罪のない地域社会を築こうと、街頭での呼びかけ運動に参加してくれました。暑い日の夕方でしたが、さわやかな姿に賞賛と感謝の言葉をいただきました。全校のみなさんも明るく楽しい夏休みにしてください!

地区別懇談会「中学生にかけたい言葉」から

* おことわり 地区ごとのまとめではなく、記録をもとに一つの大きな流れになるよう構成してあります。

- ・うちの子は部活に追われる生活で、夜はすぐに寝てしまう。かと思えば、ゲームばかりしていて勉強をしない。それを指摘すると、つくどく言っでしまい、逆効果になってしまう。
- ・子どもが触れられたくない話題に触れてしまうと、「大変なこと」になる。
- ・「子どもを思えばこそ」の言葉がけをしたつもりでも後悔することになるケースも。
「やらないとマズイ」という自覚が生まれるのを待つのがよいのでは？
本人はやらなければならないことがわかっていて、自分でもなんとかしなければと思っているものだ。朝などは、家族みんなが気持ちのよいスタートを切れるような言葉がけを心がけてみてはどうか。
家族でルール（ゲームは何時までするのかといった具体的な時間のけじめなど）を決めて実行したり、時には1対1で本気の思いをぶつけ合うことが必要だ。本人も「このままではいけない」と気づき、状況が改善された。
- ・子どもから相談を持ちかけられることがよくある。しかし、それにどう答えてやればいいのか難しい。実のところ、うんざりすることもある。相談してくれるうちは、とにかく聞いてあげる。否定するのではなく、同調しつつもおかしいと感じる点には助言を与える。傾聴する姿勢で。
- ・うちの子は何もしゃべってくれない。何を考えているのかわからない。
他の子ども（友達や兄弟など）と比べるようなことはしていないか。子どもは他の子どもと比べられると、とても嫌な気持ちになる。
子どもの居場所を作ってやりたい。見守り続けることも大切。
- ・親の考えていることを言葉の裏で感じるのか、声かけが難しい。
子どもを認めることが大事だ。子どもはもっと自分のことを見てほしいと願っている。
わが子はふだんから家の手伝いをよくしてくれる。それを親自身「よくやってくれてるなあ」とほめていたつもりだったが、子どもにはその思いが伝わっていなかった（認めてもらっていないと感じていた）ということがあった。もっと子どもに思いが伝わる言葉がけをしっかりとすべきだと思った。
部活の試合で負けた時は、負けたことを指摘するより試合でよかったことを言うようにする。
「お疲れさん」と声をかけてやりたい。
- これからも、子ども（わが子のみならず、地域の子とも含めて）の心の中に「気づき」と「やる気」が生まれる言葉がけをしていきましょう。（ご参加くださいましたみなさま、ありがとうございました）

写真が入っていました。

早くも1学期が終わろうとしています。この間、保護者のみなさまにはさまざまなご支援ご協力を賜りありがとうございました。本日はこの「全力投球」のほか、数多くのプリントをお配りしています。情報過多で申し訳ありませんが、いずれもよくお読みいただき、プリントの内容によってはお子さまを交えた会話の材料にさせていただければ幸いです。この学期末に体育祭の団も決定し、早くも取り組みが始まりました。体育祭は9月11日(土)に開催する予定です。乞、ご期待！

名札を落とした中学生が困っているだろうと、わざわざ封書で送ってくださったかたがあります（匿名）。お名前がわからずお礼の申し上げようがないのですが、ここに記して感謝の思いを伝えたいと思います。ありがとうございました。